

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">齊藤 紀子 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">ピアノをめぐる「場」の研究 -三木楽器のピアノ納入記録(1902-1940)の調査に基づいて-</p>	<p>この論文は大阪市に本社を置く楽器商の三木楽器の、ピアノ納入に関する二冊の記録簿(1902~1940)を分析することによって、日本におけるピアノの普及状況を検証することを目的としている。三木楽器は、楽器販売のみならず楽譜や書籍の出版などの音楽事業を多面的に展開し、日本の洋楽受容史に重要な足跡を残している。創業は江戸時代の1825年で書籍業として大坂本屋仲間に参加し、明治期は文部省との関係で教育関連書籍の出版・販売に従事していた。本論文では、該当年間のピアノ納入台数、製造国、メーカー、種類の各視点から精査し、輸入ピアノと同等に日本製のピアノが流通し、グランドピアノに比べてアップライトピアノが3倍の納入数があったこと、またコテージピアノや自動ピアノなども扱われていたことが明らかとなった。また、納入地域、納入施設、また取次商を中心とした販売ネットワークがあることも判明した。さらに、大阪府内の納入地域を分析することで、大阪市内のみならず近隣の都市や郊外住宅などの形成過程とほぼ一致するようにピアノが普及したことも分かった。こうしたデータの分析から個人への納入が多いことが明らかになったが、ここに明治期以来の家庭音楽の興隆の視点を取り入れ、当時の雑誌『音楽界』などの記事を調査すると共に、住宅改良会の機関誌『住宅』における住宅のプランにピアノが配置されていることに着目し、洋式を取り入れた住宅の居間に家具の一例としてピアノが置かれていること、さらにそうした住宅の施行地が、東京および大阪、京都、兵庫にわたる関西圏にみられ、ピアノの普及地域との一致も明らかになった。このようにして、書籍商として創始した三木楽器がその販売網によってピアノの普及を実現したこと、また音楽雑誌や住宅雑誌などの活字メディアを通してピアノをめぐる音楽文化が発信された点においても、三木楽器の果たした役割が大きかったことが明らかとなった。</p>
審査委員	<p>(主査) 教授 永原 恵三</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 鈴木 禎宏</p>	
	<p style="text-align: center;">助教 井上 登喜子</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 中村 美奈子</p>	
	<p style="text-align: center;">聖徳大学音楽学部 教授 徳丸 吉彦</p>	